

後のおやなりしが、これもや、おとろへぬ、ふたおやのたのめる所た、此むすめばかりなると
まりて、またしきものあひばかりて、むこをとすへ、父母をやしなはせんとしければ、むすめい
なびていへるには、人の心まりがたし、わがおとことなれらんものもしち、母にあしくば、われ
いかばかりおやを思へるとも、心にまかせざる事おほかるべし、そのときくゆるとも、かひあら
んや、おぼつかなきはかり事は、せざるには、まかじ、我女にこそはあれ、たゞ二人のおやなれば、と
もかくもやしなひ見ざらめやとて、みづから田畑の事に心をつくし、身をやつせり、人なをま
てむこの事いへど、つるにうけひくけしきなし、たへがたきわざにもよくたへて、ちからのかぎ
りつとめけるほどに、父もま、母もよろづとぼしからずして、つねによるこびるけるとぞ、

〔比賣鑑 紀行五〕ちかき比、備中國窪屋郡三田村の民、久兵衛といふもの、妻に孝婦あり、久兵衛が
父きはめてかたくなし、よめをつかひて、いさ、か心にかなはざれば、うちさいなむ、まかれども
よめはうらむる心もなく、ふかくそのつみをうけて、さかはず、孝養おこたれる事なし、まうと八
十にをよびて、あしよはくなれるを、夜日となく、そのたちをたすけけり、ある夜よめつかれ、ふ
して、まうとのおき出るを、まらず、まうといかりて、よめが物つくうすの中にいばりす、よめ目さ
めて、これをまれども、つゆ色にあらはさず、いたくわかいぎたなかりしを、くひかなし、まうと
の心とくるを、うかッひて、ひそかに白をきよめけり、よろづやはらぎ、またがへるさま、みなかく
のごとし、まりてかばかりつらきまうとなりけれど、終にはよめが心ざしにめで、すぎこしひ
がひがしさを悔なげけり、その比しも國のなりはひ見めぐる人、かの家の門をよぎりければ、ま
うと出まみえて、よめが孝行いみじき事ども、つぶさに告かたる、その人やがて國の君に申けれ
ば、よめに祿たまはりて、賞せられけり、

〔年山紀聞 四〕孝子彌作